

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月10日
【四半期会計期間】	第17期第2四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	日本酸素ホールディングス株式会社 （旧会社名 大陽日酸株式会社）
【英訳名】	NIPPON SANSO HOLDINGS CORPORATION （旧英訳名 TAIYO NIPPON SANSO CORPORATION） （注）2020年6月19日開催の第16回定時株主総会の決議により、2020年10月1日から会社名及び英訳名を上記のとおり変更いたしました。
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 市原 裕史郎
【本店の所在の場所】	東京都品川区小山一丁目3番26号
【電話番号】	（03）5788-8500 （注）2020年10月1日付の持株会社体制への移行に伴い、電話番号を変更いたしました。
【事務連絡者氏名】	財務・経理室 経理部長 吉田 隆志
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区小山一丁目3番26号
【電話番号】	（03）5788-8500
【事務連絡者氏名】	財務・経理室 経理部長 吉田 隆志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第2四半期 連結累計期間	第17期 第2四半期 連結累計期間	第16期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上収益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	422,881 (212,552)	384,505 (200,001)	850,239
税引前四半期利益又は 税引前利益 (百万円)	40,831	30,821	79,133
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	27,740 (15,518)	21,001 (13,564)	53,340
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	9,485	37,664	10,996
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	395,847	440,495	409,344
資産合計 (百万円)	1,732,168	1,774,281	1,751,732
基本的1株当たり四半期 (当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (円)	64.10 (35.86)	48.53 (31.34)	123.26
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益 (円)	-	-	-
親会社所有者帰属持分比率 (%)	22.9	24.8	23.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	70,503	53,928	150,084
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	33,244	30,237	62,629
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	25,562	21,112	46,242
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	69,376	104,342	100,005

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上収益には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

3. 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

4. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいてあります。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）における当社グループの事業環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、第1四半期連結会計期間では進出国及び地域では大幅な景気低迷と需要減退の局面を迎え、製造業の生産活動も急速に減速・停滞しておりました。当第2四半期連結会計期間に入り、一般的に回復の兆しが現れ、四半期単位でのセパレートガス（酸素、窒素、アルゴン）の出荷は緩やかに復調しつつありますが、前期に比べ大きく減少しました。

このような状況の下、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上収益3,845億5百万円（前年同期比9.1%減少）、コア営業利益367億27百万円（同19.2%減少）、営業利益366億65百万円（同21.6%減少）、親会社の所有者に帰属する四半期利益210億1百万円（同24.3%減少）となりました。

なお、コア営業利益は営業利益から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出しております。

セグメント業績は、次のとおりです。

なお、セグメント利益はコア営業利益で表示しております。

国内ガス事業

産業ガス関連では、主力製品であるセパレートガスの売上収益は、関連業界での生産活動が低調に推移し、前期に比べ大きく減少しました。一方、エレクトロニクス関連での電子材料ガスの売上収益は、前期並みとなりました。機器・工事では、エレクトロニクス関連で大きく増収となりましたが、金属加工向けの溶接・溶断関連機材を中心に前期を大きく下回りました。

以上の結果、国内ガス事業の売上収益は、1,571億25百万円（前年同期比9.7%減少）、セグメント利益は、114億76百万円（同6.8%減少）となりました。

米国ガス事業

産業ガス関連では、パッケージ・バルクを中心に、主力製品であるセパレートガスの売上収益は大きく減少しました。オンサイトでは、供給先の需要低下の影響で前期を下回りました。機器・工事では、エレクトロニクス関連での売上収益は増加しましたが、金属加工向けの溶接・溶断関連機材では、州内での小売店舗の営業活動自粛の影響もあり、大幅に減少しました。

以上の結果、米国ガス事業の売上収益は、912億53百万円（前年同期比7.8%減少）、セグメント利益は、96億31百万円（同18.0%減少）となりました。

欧州ガス事業

主要地域となるイベリア（スペイン・ポルトガル）、ドイツ、イタリアでは、生産活動全般で停滞が生じたことにより、バルクガスの需要は大きく落ち込みました。また、オンサイトでは、供給先の需要低下の影響を受けて、大幅に減少しました。機器・工事では、金属加工向け溶接・溶断関連機材を中心に大きく減少しました。

以上の結果、欧州ガス事業の売上収益は、748億21百万円（前年同期比12.3%減少）、セグメント利益は、86億49百万円（同34.6%減少）となりました。

アジア・オセアニアガス事業

産業ガス関連では、フィリピン等での都市部封鎖や製造業の生産活動停滞の影響を受け、主力製品であるセパレートガスの売上収益は大きく減少しました。LPガスでは、仕入での契約価格低下による販売単価下落はありましたが、豪州での出荷は堅調でした。エレクトロニクス関連では、東アジアでの電子材料ガスの出荷は好調です。機器・工事では、台湾での工事案件の剥落に加え、シンガポールでのスポット案件の減少と金属加工向け溶接・溶断関連機材を中心に大きく減少しました。

以上の結果、アジア・オセアニアガス事業の売上収益は、502億64百万円（前年同期比2.6%減少）、セグメント利益は、56億73百万円（同5.5%増加）となりました。

サーモス事業

サーモス事業は、国内では、第1四半期連結会計期間での外出制限や営業自粛要請により、行楽シーズンでの販売機会を喪失した影響が大きく、主力製品のケータイマグの売上収益は大きく減少しました。一方、自宅で過ごす時間の長い新たなライフスタイルが浸透したことに関連し、フライパンやタンブラーの販売数量は大きく増加しました。海外では、各地域での景気減退の影響を受け、販売数量が減少しました。

以上の結果、サーモス事業の売上収益は、110億39百万円（前年同期比 15.4%減少）、セグメント利益は、21億12百万円（同 48.9%減少）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は1兆7,742億81百万円で、前連結会計年度末比で225億48百万円の増加となっております。為替の影響については、前連結会計年度末に比べ期末日レートがUSドルで3円3銭の円高、ユーロで4円62銭の円安となるなど、約236億円多く表示されております。

〔資産〕

流動資産は、棚卸資産の増加や営業債権の減少等により、前連結会計年度末比で37億14百万円増加し、3,710億16百万円となっております。

非流動資産は、のれんやその他の金融資産の増加等により、前連結会計年度末比で188億34百万円増加し、1兆4,032億64百万円となっております。

〔負債〕

流動負債は、社債及び借入金や営業債務の減少等により、前連結会計年度末比で341億1百万円減少し、2,978億2百万円となっております。

非流動負債は、社債及び借入金や繰延税金負債の増加等により、前連結会計年度末比で273億70百万円増加し、1兆65億5百万円となっております。

〔資本〕

資本は、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上による増加や利益剰余金の配当、在外営業活動体の換算差額の増加等により、前連結会計年度末比で292億79百万円増加し、4,699億73百万円となっております。

なお、親会社所有者帰属持分比率は24.8%で前連結会計年度末に比べ1.4ポイント高くなっております。

(3) キャッシュ・フローの分析

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税引前四半期利益、減価償却費及び償却費、営業債務の増減額等により、営業活動によるキャッシュ・フローは539億28百万円の収入（前第2四半期連結累計期間比 165億74百万円収入の減少）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出等により、投資活動によるキャッシュ・フローは302億37百万円の支出（同 30億6百万円支出の減少）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入金の返済による支出、コマーシャル・ペーパーの純増減額、長期借入れによる収入等により、財務活動によるキャッシュ・フローは211億12百万円の支出（同 44億50百万円支出の減少）となりました。

これらの結果に、為替換算差額等を加えた当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物の四半期末残高は、1,043億42百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、17億18百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,600,000,000
計	1,600,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2020年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	433,092,837	433,092,837	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	433,092,837	433,092,837	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	433,092	-	37,344	-	56,433

(5)【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社三菱ケミカルホールディングス	東京都千代田区丸の内1-1-1	218,996	50.59
大陽日酸取引先持株会	東京都品川区小山1-3-26	18,065	4.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	14,435	3.33
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	11,694	2.70
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	10,007	2.31
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	8,182	1.89
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町1-13-2	7,000	1.62
JFEスチール株式会社	東京都千代田区内幸町2-2-3	6,627	1.53
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-12	3,925	0.91
JP MORGAN CHASE BANK 380055 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	270 PARK AVENUE, NEW YORK, NY 10017, UNITED STATE OF AMERICA (東京都港区港南2-15-1 品川イン ターシティA棟)	3,804	0.88
計	-	302,740	69.93

(注)日本マスタートラスト信託銀行株式会社及び株式会社日本カストディ銀行の所有株式数は、すべて信託業務に係るものであります。

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 182,000	-	単元株式数は100株で あります。
	(相互保有株式) 普通株式 792,500	-	
完全議決権株式(その他)	普通株式 431,896,600	4,318,966	同上
単元未満株式	普通株式 221,737	-	1単元(100株)未満 の株式
発行済株式総数	433,092,837	-	-
総株主の議決権	-	4,318,966	-

(注) 1. 単元未満株式には、当社所有の自己株式62株、ニッキフッコー(株)所有の相互保有株式59株、福西産業(株)所有の相互保有株式73株及び(株)証券保管振替機構名義の株式38株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が1,400株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数14個が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 大陽日酸(株)	東京都品川区小山1-3-26	182,000	-	182,000	0.04
(相互保有株式) 幸栄運輸(株)	宮城県多賀城市宮内2-3-2	137,000	123,900	260,900	0.06
ニッキフッコー(株)	広島県呉市広白岳3-1-52	80,200	133,000	213,200	0.05
宮崎酸素(株)	宮城県宮崎市祇園2-140-1	10,000	114,300	124,300	0.03
北関東日酸(株)	栃木県小山市大字横倉新田503	-	77,000	77,000	0.02
埼玉日酸(株)	埼玉県川口市青木3-5-1	-	47,700	47,700	0.01
岡安産業(株)	東京都江東区亀戸6-57-23	29,000	12,700	41,700	0.01
仙台日酸(株)	宮城県多賀城市宮内2-3-2	-	26,900	26,900	0.01
関東アセチレン工業(株)	群馬県渋川市中村1110	-	700	700	0.00
福西産業(株)	大阪府大阪市此花区梅香1-26-9	100	-	100	0.00
計	-	438,300	536,200	974,500	0.22

(注) 1. 「他人名義所有株式数」の欄に記載しております株式の名義は全て「大陽日酸取引先持株会」(東京都品川区小山1-3-26)であり、同会名義の株式のうち、各社の持分残高の単元部分を記載しております。

2. 当社は2020年10月1日付で日本酸素ホールディングス株式会社に商号変更しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」という。）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【要約四半期連結財務諸表】

(1)【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2020年9月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		100,005	104,342
営業債権		179,243	171,243
棚卸資産		65,886	71,164
その他の金融資産	10	7,147	7,816
その他の流動資産		15,020	16,181
小計		367,302	370,749
売却目的で保有する資産	8	-	267
流動資産合計		367,302	371,016
非流動資産			
有形固定資産		655,195	657,073
のれん		419,290	430,987
無形資産		232,077	232,379
持分法で会計処理されている投資		32,065	32,039
その他の金融資産	10	38,834	43,428
退職給付に係る資産		1,358	1,370
その他の非流動資産		971	1,340
繰延税金資産		4,637	4,645
非流動資産合計		1,384,430	1,403,264
資産合計		1,751,732	1,774,281

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2020年9月30日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務		93,885	82,660
社債及び借入金	10	154,980	133,588
未払法人所得税		8,331	7,472
その他の金融負債	10	51,525	47,637
引当金		375	394
その他の流動負債		22,805	26,048
流動負債合計		331,903	297,802
非流動負債			
社債及び借入金	10	807,611	828,976
その他の金融負債	10	29,171	29,453
退職給付に係る負債		12,952	13,462
引当金		3,281	3,392
その他の非流動負債		20,282	20,356
繰延税金負債		105,835	110,863
非流動負債合計		979,135	1,006,505
負債合計		1,311,038	1,304,307
資本			
資本金		37,344	37,344
資本剰余金		56,387	56,048
自己株式		268	271
利益剰余金		379,322	394,134
その他の資本の構成要素		63,441	46,760
親会社の所有者に帰属する持分合計		409,344	440,495
非支配持分		31,349	29,477
資本合計		440,693	469,973
負債及び資本合計		1,751,732	1,774,281

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

(第 2 四半期連結累計期間)

(単位 : 百万円)

	注記	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月30日)
売上収益	4 , 5	422,881	384,505
売上原価		259,875	236,602
売上総利益		163,005	147,902
販売費及び一般管理費		120,441	112,522
その他の営業収益		4,463	2,120
その他の営業費用		1,741	1,464
持分法による投資利益		1,463	628
営業利益		46,749	36,665
金融収益		1,268	743
金融費用		7,185	6,587
税引前四半期利益		40,831	30,821
法人所得税		12,107	9,259
四半期利益		28,724	21,561
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		27,740	21,001
非支配持分		984	560
1 株当たり四半期利益			
基本的 1 株当たり四半期利益 (円)	6	64.10	48.53

(第2四半期連結会計期間)

(単位:百万円)

	注記	前第2四半期連結会計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
売上収益		212,552	200,001
売上原価		130,343	122,832
売上総利益		82,208	77,169
販売費及び一般管理費		60,349	56,155
その他の営業収益		3,739	1,575
その他の営業費用		629	847
持分法による投資利益		690	854
営業利益		25,659	22,595
金融収益		478	103
金融費用		3,570	3,373
税引前四半期利益		22,567	19,326
法人所得税		6,608	5,393
四半期利益		15,958	13,932
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		15,518	13,564
非支配持分		439	368
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	6	35.86	31.34

【要約四半期連結包括利益計算書】

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期利益	28,724	21,561
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	1,342	3,252
確定給付制度の再測定	11	18
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	8	32
純損益に振り替えられることのない項目合計	1,345	3,201
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	34,680	14,157
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変 動の有効部分	57	4
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	1,564	430
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	36,301	13,722
税引後その他の包括利益合計	37,647	16,923
四半期包括利益	8,922	38,485
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	9,485	37,664
非支配持分	562	821

(第2四半期連結会計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
四半期利益	15,958	13,932
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	242	1,199
確定給付制度の再測定	1	13
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	15	0
純損益に振り替えられることのない項目合計	225	1,213
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	17,135	5,520
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変 動の有効部分	55	32
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	727	16
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	17,918	5,504
税引後その他の包括利益合計	18,144	6,717
四半期包括利益	2,185	20,650
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	2,476	20,181
非支配持分	291	468

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金
2019年4月1日残高		37,344	53,116	261	339,393
四半期利益		-	-	-	27,740
その他の包括利益		-	-	-	-
四半期包括利益		-	-	-	27,740
自己株式の取得		-	-	3	-
自己株式の処分		-	0	0	-
配当	7	-	-	-	5,627
支配継続子会社に対する 持分変動		-	3	-	-
企業結合又は事業分離		-	4,352	-	-
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	-	11
連結範囲の変動		-	-	-	12
その他の増減		-	-	-	-
所有者との取引額等合計		-	4,348	3	5,626
2019年9月30日残高		37,344	57,465	264	361,507

その他の資本の構成要素

	注記	在外営業活 動体の換算 差額	キャッ シュ・フ ロー・ヘッ ジの公正価 値の純変動 の有効部分	その他の包 括利益を通 じて公正価 値で測定す る金融資産	確定給付制 度の再測定	合計	親会社の所 有者に帰属 する持分 合計	非支配 持分	資本 合計
2019年4月1日残高		33,440	39	10,488	-	22,991	406,602	29,251	435,854
四半期利益		-	-	-	-	-	27,740	984	28,724
その他の包括利益		35,832	57	1,324	11	37,225	37,225	421	37,647
四半期包括利益		35,832	57	1,324	11	37,225	9,485	562	8,922
自己株式の取得		-	-	-	-	-	3	-	3
自己株式の処分		-	-	-	-	-	0	-	0
配当	7	-	-	-	-	-	5,627	604	6,232
支配継続子会社に対する 持分変動		-	-	-	-	-	3	16	19
企業結合又は事業分離		-	-	-	-	-	4,352	1,165	5,518
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	0	11	11	-	-	-
連結範囲の変動		-	-	-	-	-	12	-	12
その他の増減		-	-	-	-	-	-	259	259
所有者との取引額等合計		-	-	0	11	11	1,269	285	984
2019年9月30日残高		69,272	96	9,163	-	60,205	395,847	30,100	425,947

当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金
2020年4月1日残高		37,344	56,387	268	379,322
四半期利益		-	-	-	21,001
その他の包括利益		-	-	-	-
四半期包括利益		-	-	-	21,001
自己株式の取得		-	-	2	-
自己株式の処分		-	0	0	-
配当	7	-	-	-	6,060
支配継続子会社に対する 持分変動		-	339	-	-
企業結合又は事業分離		-	-	-	-
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	-	18
連結範囲の変動		-	-	-	110
その他の増減		-	-	-	-
所有者との取引額等合計		-	339	2	6,190
2020年9月30日残高		37,344	56,048	271	394,134

その他の資本の構成要素

	注記	在外営業活動体の換算差額	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動の有効部分	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	確定給付制度の再測定	合計	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2020年4月1日残高		71,170	19	7,709	-	63,441	409,344	31,349	440,693
四半期利益		-	-	-	-	-	21,001	560	21,561
その他の包括利益		13,516	7	3,172	18	16,662	16,662	260	16,923
四半期包括利益		13,516	7	3,172	18	16,662	37,664	821	38,485
自己株式の取得		-	-	-	-	-	2	-	2
自己株式の処分		-	-	-	-	-	0	-	0
配当	7	-	-	-	-	-	6,060	407	6,468
支配継続子会社に対する 持分変動		-	-	-	-	-	339	2,517	2,856
企業結合又は事業分離		-	-	-	-	-	-	54	54
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	0	18	18	-	-	-
連結範囲の変動		-	-	-	-	-	110	-	110
その他の増減		-	-	-	-	-	-	177	177
所有者との取引額等合計		-	-	0	18	18	6,513	2,692	9,205
2020年9月30日残高		57,653	11	10,881	-	46,760	440,495	29,477	469,973

(4)【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	40,831	30,821
減価償却費及び償却費	41,515	43,022
受取利息及び受取配当金	659	480
支払利息	7,145	6,565
持分法による投資損益(は益)	1,463	628
有形固定資産及び無形資産除売却損益(は益)	2,047	29
営業債権の増減額(は増加)	13,550	8,859
棚卸資産の増減額(は増加)	5,147	4,445
営業債務の増減額(は減少)	11,967	12,050
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	206	196
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	390	405
その他	2,206	4,549
小計	84,149	67,353
利息の受取額	101	93
配当金の受取額	4,538	1,023
利息の支払額	6,158	5,705
法人所得税の支払額又は還付額(は支払)	12,127	8,836
営業活動によるキャッシュ・フロー	70,503	53,928
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	36,500	29,026
有形固定資産の売却による収入	2,494	218
投資の取得による支出	291	468
投資の売却及び償還による収入	77	5
子会社の取得による支出	-	119
子会社の売却による収入	1,586	-
その他	611	846
投資活動によるキャッシュ・フロー	33,244	30,237
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	54,365	2,010
コマーシャル・ペーパーの純増減額(は減少)	11,000	10,000
長期借入れによる収入	55,757	51,564
長期借入金の返済による支出	27,273	51,320
リース負債の返済による支出	4,427	4,230
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	22	2,704
配当金の支払額	5,627	6,060
非支配持分への配当金の支払額	604	407
その他	1	36
財務活動によるキャッシュ・フロー	25,562	21,112
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	1,981	1,739
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	9,715	4,318
現金及び現金同等物の期首残高	59,620	100,005
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	41	-
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	19
現金及び現金同等物の四半期末残高	69,376	104,342

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

日本酸素ホールディングス株式会社（以下、「当社」という。）は日本国に所在する企業であり、東京証券取引所市場第一部に上場しております。当社の登記している本社の住所は、ウェブサイト

(<https://www.nipponsanso-hd.co.jp>) で開示しております。当社及び子会社（以下、「当社グループ」という。）の要約四半期連結財務諸表は9月30日を期末日とし、当社グループ並びにその関連会社及び共同支配の取決めに対する持分により構成されております。当社グループは、鉄鋼、化学、エレクトロニクス産業向けなどに国内外でガス事業を展開するほか、ステンレス製魔法瓶など家庭用品の製造・販売などの事業も行ってまいります。詳細については、注記「4. 事業セグメント」に記載しております。

当社の親会社は、株式会社三菱ケミカルホールディングスであります。

なお、2020年10月1日付で太陽日酸株式会社は日本酸素ホールディングス株式会社へ商号変更しております。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。当社は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たしていることから、同93条の規定を適用しております。

要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

(2) 財務諸表の承認

当社グループの本要約四半期連結財務諸表は、2020年11月10日に、当社代表取締役社長 市原裕史郎及び最高財務責任者 Alan David Draperによって承認されております。

(3) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

(4) 表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(5) 判断、見積り及び仮定の利用

当社グループのIFRSに準拠した要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行う必要があります。実際の業績はこれらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は、継続して見直されます。会計上の見積りの変更による影響は、その見積りが変更された会計期間及び影響を受ける将来の会計期間において認識されます。

当社グループの要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、原則として前連結会計年度の連結財務諸表と同様であります。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による会計上の見積り及び仮定についても、当第2四半期連結会計期間末において重要な変更はありません。

3. 重要な会計方針

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度において適用した会計方針と同一であります。

なお、各四半期における法人所得税は、見積年次実効税率を基に算定しております。

4. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。なお、報告にあたって事業セグメントの集約は行っていません。

当社グループは、鉄鋼、化学、エレクトロニクス産業向けなどに国内外でガス事業を行っており、主要製品に関しては、日本、米国、欧州、アジア・オセアニアの各地域において、それぞれ生産・販売体制を構築しております。また、ステンレス製魔法瓶など家庭用品の製造・販売などの事業も行っております。したがって、当社は、「国内ガス事業」「米国ガス事業」「欧州ガス事業」「アジア・オセアニアガス事業」「サーモス事業」の5つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主要な製品は、以下のとおりであります。

報告セグメント	主要な製品・サービス
国内ガス事業	酸素、窒素、アルゴン、炭酸ガス、ヘリウム、水素、アセチレン、ガス関連機器、特殊ガス（電子材料ガス、純ガス等）、電子関連機器・工事、半導体製造装置、溶断機器、溶接材料、機械装置、LPガス・関連機器、医療用ガス（酸素、亜酸化窒素等）、医療機器、安定同位体
米国ガス事業	
欧州ガス事業	
アジア・オセアニアガス事業	
サーモス事業	家庭用品

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している方法と同一であります。なお、セグメント間の内部売上収益又は振替高は、主に市場実勢価格に基づいております。

(2) 報告セグメントごとの売上収益及び損益の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント						調整額 (注1)	連結
	国内ガス 事業	米国ガス 事業	欧州ガス 事業	アジア・ オセアニア ガス事業	サーモス 事業	合計		
売上収益								
外部顧客への売上収益	174,015	98,953	85,283	51,582	13,046	422,881	-	422,881
セグメント間の内部 売上収益又は振替高	4,984	8,021	-	1,362	11	14,379	14,379	-
計	178,999	106,975	85,283	52,944	13,057	437,261	14,379	422,881
セグメント利益(注2)	12,319	11,744	13,218	5,376	4,137	46,796	1,316	45,479

(注) 1. セグメント利益の調整額 1,316百万円には、セグメント間取引消去 336百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 980百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに配分していない基礎研究費用等です。

2. セグメント利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出したコア営業利益で表示しております。

当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	連結
	国内ガス 事業	米国ガス 事業	欧州ガス 事業	アジア・ オセアニア ガス事業	サーモス 事業	合計		
売上収益								
外部顧客への売上収益	157,125	91,253	74,821	50,264	11,039	384,505	-	384,505
セグメント間の内部 売上収益又は振替高	7,293	8,812	6	1,568	17	17,697	17,697	-
計	164,418	100,066	74,828	51,832	11,057	402,203	17,697	384,505
セグメント利益(注2)	11,476	9,631	8,649	5,673	2,112	37,543	816	36,727

(注)1. セグメント利益の調整額 816百万円には、セグメント間取引消去 123百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 692百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに配分していない基礎研究費用等です。

2. セグメント利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(事業撤退や縮小から生じる損失等)を除いて算出したコア営業利益で表示しております。

セグメント利益から、税引前四半期利益への調整は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
セグメント利益	45,479	36,727
固定資産売却益	2,059	-
減損損失	311	-
その他	479	61
営業利益	46,749	36,665
金融収益	1,268	743
金融費用	7,185	6,587
税引前四半期利益	40,831	30,821

5. 売上収益

当社グループは、鉄鋼、化学、エレクトロニクス産業向けなどに国内外でガス事業を行っており、主要製品に関しては、日本、米国、欧州、アジア・オセアニアの各地域において、それぞれ生産・販売体制を構築しております。また、ステンレス製魔法瓶など家庭用品の製造・販売などの事業も行っております。

これらの事業における製品販売については、製品の引渡時点において、顧客が当該製品に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断し、当該製品の引渡時点で収益を認識しております。

また、収益は、顧客との契約において約束された対価から、値引き、リベート及び返品などを控除した金額で測定しております。

なお、製品の販売契約における対価は、製品に対する支配が顧客に移転した時点から概ね1年以内に回収しており、重要な金利要素は含んでおりません。

売上収益の分解と報告セグメントの売上収益との関連

当第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

（単位：百万円）

	国内ガス事業	米国ガス事業	欧州ガス事業	アジア・オセアニアガス事業	サーモス事業	合計
売上収益						
ガス	117,370	78,711	77,844	38,258	-	312,184
機器・装置 他	56,644	20,242	7,439	13,323	-	97,650
家庭用品	-	-	-	-	13,046	13,046
合計	174,015	98,953	85,283	51,582	13,046	422,881

当第2四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

（単位：百万円）

	国内ガス事業	米国ガス事業	欧州ガス事業	アジア・オセアニアガス事業	サーモス事業	合計
売上収益						
ガス	105,381	72,962	68,137	38,145	-	284,627
機器・装置 他	51,743	18,291	6,683	12,118	-	88,838
家庭用品	-	-	-	-	11,039	11,039
合計	157,125	91,253	74,821	50,264	11,039	384,505

6.1 株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益及びその算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	27,740	21,001
期中平均普通株式数(千株)	432,756	432,753
基本的1株当たり四半期利益(円)	64.10	48.53

(注)なお、希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

	前第2四半期連結会計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	15,518	13,564
期中平均普通株式数(千株)	432,755	432,752
基本的1株当たり四半期利益(円)	35.86	31.34

(注)なお、希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

7. 配当

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(1) 配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月20日 定時株主総会	普通株式	5,627	13	2019年3月31日	2019年6月21日

(2) 基準日が前第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が前第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年10月31日 取締役会	普通株式	6,060	14	2019年9月30日	2019年12月2日

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(1) 配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年6月19日 定時株主総会	普通株式	6,060	14	2020年3月31日	2020年6月22日

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年10月30日 取締役会	普通株式	6,060	14	2020年9月30日	2020年12月1日

8. 売却目的で保有する資産

売却目的で保有する資産の内訳は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
売却目的で保有する資産		
有形固定資産	-	267
合計	-	267

9. 社債

前第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

該当事項はありません。

10. 金融商品

金融商品の公正価値

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、レベル1からレベル3までを以下のように分類しております。

レベル1：同一の資産又は負債の活発な市場における無調整の公表価格により測定された公正価値

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：重要な観察可能な市場データに基づかないインプットを含む評価技法から算出された公正価値

金融商品のレベル間の振替は、期末日ごとに判断しております。前連結会計年度及び当第2四半期連結累計期間において、レベル間の重要な振替が行われた金融商品はありません。

(1) 経常的に公正価値で測定する金融商品

公正価値で測定している金融商品は、以下のとおりであります。

前連結会計年度（2020年3月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
株式及び出資金	20,797	-	8,202	28,999
デリバティブ資産	-	71	-	71
合計	20,797	71	8,202	29,071
負債				
デリバティブ負債	-	78	-	78
合計	-	78	-	78

当第2四半期連結会計期間(2020年9月30日)

(単位:百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
株式及び出資金	25,217	-	8,825	34,043
デリバティブ資産	-	85	-	85
合計	25,217	85	8,825	34,128
負債				
デリバティブ負債	-	68	-	68
合計	-	68	-	68

株式及び出資金

レベル1に分類される市場性のある株式の公正価値は、同一の資産又は負債の活発な市場における無調整の公表価格によっております。

レベル3に分類される活発な市場における公表価格が入手できない非上場株式の公正価値は、合理的に入手可能なインプットにより、類似企業比較法又はその他適切な評価技法を用いて算定しております。なお、必要に応じて一定の非流動性ディスカウント等を加味しております。

デリバティブ資産及びデリバティブ負債

レベル2に分類されるデリバティブ資産及びデリバティブ負債の公正価値は、取引先金融機関から提示された価格、又は為替レート及び金利等の観察可能なインプットに基づき算定しております。

レベル3に分類される金融商品は、適切な権限者に承認された公正価値測定に係る評価方法を含む評価方針及び手続に従い、評価者が対象となる各金融商品の評価方法を決定し、公正価値を算定しております。その結果は適切な権限者がレビュー、承認しております。

レベル3に分類された金融商品の増減は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
期首残高	9,625	8,202
その他の包括利益(注)	86	319
購入	243	421
売却	-	-
連結範囲の変動	50	248
その他の増減	789	130
四半期末残高	9,114	8,825

(注) 要約四半期連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産」に含まれておりません。

(2) 償却原価で測定する金融商品

償却原価で測定している金融商品の帳簿価額と公正価値は、以下のとおりであります。

前連結会計年度（2020年3月31日）

（単位：百万円）

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
負債					
長期借入金	706,816	-	723,575	-	723,575
社債	196,997	-	198,961	-	198,961
合計	903,814	-	922,536	-	922,536

当第2四半期連結会計期間（2020年9月30日）

（単位：百万円）

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
負債					
長期借入金	714,926	-	730,864	-	730,864
社債	197,107	-	198,758	-	198,758
合計	912,034	-	929,622	-	929,622

償却原価で測定する金融商品については、長期借入金及び社債を除いて、公正価値は帳簿価額と合理的に近似しております。

長期借入金

長期借入金の公正価値については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値に基づき算定しております。

社債

社債の公正価値については、市場価格に基づき算定しております。

11. 後発事象

該当事項はありません。

2【その他】

2020年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (1) 中間配当による配当金の総額.....6,060百万円
 - (2) 1株当たりの金額.....14円00銭
 - (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2020年12月1日
- (注) 2020年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月10日

日本酸素ホールディングス株式会社（旧会社名 大陽日酸株式会社）

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 丸山 高雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寒河江 祐一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川脇 哲也 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大陽日酸株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、大陽日酸株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。